

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2001-134669  
(P2001-134669A)

(43) 公開日 平成13年5月18日 (2001.5.18)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード <sup>*</sup> (参考)
G 0 6 F 17/60		G 0 6 F 12/14	3 2 0 A
12/14	3 2 0	15/00	3 3 0 Z
15/00	3 3 0	15/21	Z

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平11-318154

(22) 出願日 平成11年11月9日 (1999.11.9)

(71) 出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72) 発明者 夏堀 重靖

神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地 株  
式会社東芝研究開発センター内

(72) 発明者 磯部 庄三

神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地 株  
式会社東芝研究開発センター内

(74) 代理人 100081732

弁理士 大胡 典夫 (外1名)

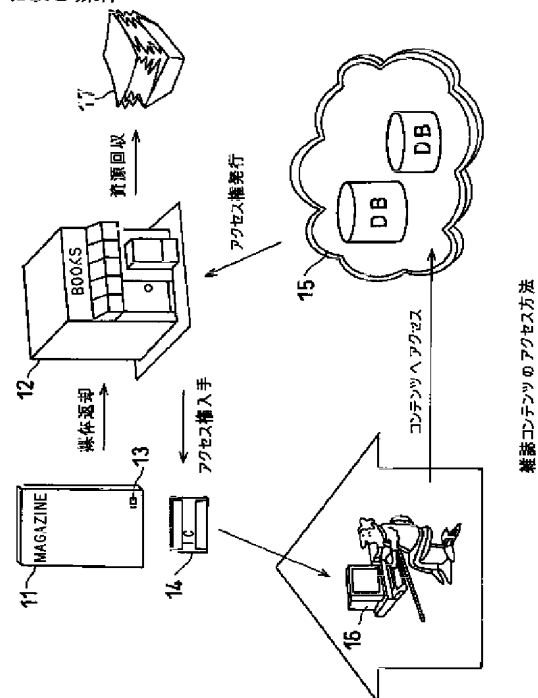
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 アクセス権取得システム、コンテンツアクセス方式、コンテンツアクセス制御方式、コンテンツ閲覧方式、コンテンツ格納媒体の販売方式、および媒体

(57) 【要約】

【課題】 第一の媒体とは異なる媒体より、第一の媒体のコンテンツと同様のコンテンツの全部または一部を鑑賞や閲覧等を行なうことを可能とする。

【解決手段】 本発明に係るアクセス権取得システムは、雑誌11、書籍、CDなどの第一の媒体を受け付ける媒体受理手段と、受け付けた媒体を確認しアクセス権の発行を促す交換処理手段と、受理した第一の媒体のコンテンツと第二の媒体のコンテンツの関連を管理するアクセス情報管理手段と、第二の媒体のコンテンツにアクセスするための権利を発行するアクセス権発行手段と、該アクセス権を記憶するアクセス権記憶手段とを有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 第一の媒体により提供されているコンテンツと同様のコンテンツが、異なる媒体である第二の媒体で提供され、第一の媒体と引き換えに、第二の媒体のコンテンツ全体、または、コンテンツの一部の1ヶ所または複数ヶ所にアクセスする権利を取得できることを特徴とするアクセス権取得システム。

【請求項2】 請求項1に記載のアクセス権取得システムにより取得したアクセス権を用い、コンテンツを構成するデータのうち、あるデータに関してはダウンロードなどの方法で手元に格納し、他のデータに関してはネットワーク上など遠隔の資源を直接アクセスし、それらを総合してコンテンツの閲覧または鑑賞などを行うことを特徴とするコンテンツアクセス方式。

【請求項3】 請求項2に記載のコンテンツアクセス方式において、第2の媒体が電子媒体である場合に、コンテンツを構成するデータの種類の基にそのデータをダウンロードしてアクセス者の手元にある記憶装置に格納するかあるいはネットワーク上で遠隔アクセスするかを制御することを特徴とするコンテンツアクセス制御方式。

【請求項4】 請求項1に記載のアクセス権取得システムを用いてアクセス権を取得する際、第一の媒体の交換を行う処理手段の置かれた地理的条件またはその他の条件によるか、もしくは、第一の媒体の交換を行うアクセス権取得者のコンテンツアクセス手段の置かれた地理的条件またはその他の条件のいずれかまたは、これらの条件を総合して、遠隔の資源の位置、または、その資源を格納しているサービス提供者、または、その代理提供者などのアクセスに要する情報などのアクセス権データ以外の付加情報をアクセス権データと共に取得することを特徴とするアクセス権取得システム。

【請求項5】 請求項1に記載のアクセス権取得システムにおいて、第2の媒体が電子媒体である場合に、データをダウンロードする際に適当な符号化がなされ、そのデータを復号する鍵は、前記アクセス権取得システムで取得したアクセス権を用いて、ネットワーク上で提供されている資源から取得できることを特徴とするコンテンツアクセス制御方式。

【請求項6】 請求項1に記載のアクセス権取得システムにより取得したアクセス権を用い、コンテンツを電子的に閲覧または鑑賞などを行う際、ダウンロードなどにより手元に置かれたデータは直接閲覧できないような符号化がなされており、ネットワーク上など遠隔の資源を直接アクセスして得られるデータにダウンロードなどにより手元に置かれたデータを復号化するためのデータが重畳されて提供され、この復号化データにより符号化されていたダウンロードなどにより手元に置かれたデータが復号化され、直接アクセスして得たデータと総合してコンテンツが閲覧できる形に構成されることを特徴とするコンテンツ閲覧装置ならびにコンテンツ閲覧方式。

【請求項7】 請求項1に記載のアクセス権取得システムによりアクセス権取得を行う際、第一の媒体の交換、回収、返却、および、その他の処理にかかる費用ならびに、アクセス権の発行、認証、格納、および、その他の処理にかかる費用、ならびに、その他の過程で発生する費用の一部または全部を予め第一の媒体の販売価格に加算しておくことを特徴とするコンテンツ格納媒体の販売方式。

【請求項8】 請求項1に記載のアクセス権取得システムにおいて第一の媒体を返却する代わりに、第一の媒体のコンテンツと同様のコンテンツが異なる媒体である第二の媒体で提供され、第二の媒体のコンテンツ全体、または、コンテンツの一部の1ヶ所または複数ヶ所にアクセスする権利を購入または取得できることを特徴とするアクセス権取得システム。

【請求項9】 請求項1または請求項8に記載のアクセス権取得システムにおいて、アクセス権取得、もしくは、コンテンツアクセスの際に直接的に、もしくは、間接的に用いる識別子、または、識別符号、または、その他の符号が、明示的にまたは暗示的に付随していることを特徴とする第一の媒体、もしくは、第一の媒体に付随する媒体、もしくは、第二の媒体に関連する媒体。

【請求項10】 請求項9に記載の第一の媒体、もしくは、第一の媒体に付随する媒体、もしくは、第二の媒体に関連する媒体に暗示的に付随する識別子、または、識別符号、または、その他の符号が媒体中のいずれの位置にあるかを示すための印を有することを特徴とする第一の媒体、もしくは、第一の媒体に付随する媒体、もしくは、第二の媒体に関連する媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は書籍、雑誌などの紙媒体コンテンツ、および、DVD、音楽CDなどのパッケージ媒体コンテンツ、および、WWWなどのネットワーク媒体コンテンツ、および、その他の媒体コンテンツのいずれかである第1の媒体と交換に、前記媒体のいずれかである第2のコンテンツにアクセスできるようなアクセス権取得システム、および、該システムに係る装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、書籍、雑誌などの紙媒体コンテンツ、DVD、音楽CDなどのパッケージ媒体コンテンツなどは、それぞれ制作、編集などが行われ、それぞれの媒体によって流通、発行、販売などが行われてきた。たとえば、書籍であれば著者が原稿を執筆し編集者がこれを書籍の体裁に整え、印刷所において紙媒体に印刷が行われ、出版社から小売店までの流通経路を経て我々の手元に届けられる。音楽CDに関しては、作詞、作曲者の作成した曲を歌手や演奏者が楽曲とし、プロデューサなどによりアルバムなどに構成され、レコード会社から小

売店までの流通経路を経て我々の手元に届けられる。このようにそれぞれ独立した制作や流通の形態をとっている。

【0003】雑誌などの記事を手元に保存したいと考えた場合、その記事を切り抜きファイリングしたり、コピー機やスキャナで複写したり、或いは、その雑誌をまるごと保存するといった方法をとってきた。しかし、これらの方法は作業が煩雑であったり、著作権を侵害する恐れもあった。さらに、雑誌等は紙で作られており、これらのリサイクル可能な資源が埋もれる原因ともなる。

【0004】一方、近年、従来それぞれ独立していた媒体が複数組み合わせられて販売されるものがある。いわゆるメディアミックスという形態でCD-ROM付き雑誌やビデオ付きの書籍などがこれにあたる。また、WWWホームページと連携している例もある。たとえば、雑誌がホームページを開設している場合、WWWのページには雑誌の記事の見出しや一部記事の抜粋や、記事内容の訂正追加といった情報、また、読者の投稿欄といったWWWだけの独自企画などで構成される。これは主媒体である雑誌の購買を促す広告といった要素が強いコンテンツであるか、ネットワークメディアの即時性や双方向性を生かして主媒体である雑誌に掲載された情報の補間的な機能を果たしているコンテンツである場合が多い。雑誌のコンテンツがそのままWWWのホームページ上に掲載されている例もあるが、この場合は主媒体である雑誌が発売中には掲載されず、次号の発売以降にバックナンバーという形での掲載となる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明によって書籍、雑誌などの紙媒体コンテンツ、DVD、音楽CDなどのパッケージ媒体コンテンツなど、第一の媒体のコンテンツと同様のコンテンツの全部または一部をアクセスする権利を第一の媒体と引き換えに得ることで、第一の媒体とは異なる媒体より、第一の媒体のコンテンツと同様のコンテンツの全部または一部を鑑賞や閲覧等を行なうことを可能とする。

【0006】コンテンツへのアクセス権取得の方法として第一の媒体と引き換えに行なうため、第一の媒体が紙やプラスチックなど再利用できる物質である場合、本発明によりリサイクルが推進できるため地球資源保護の一助となる。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明に係るアクセス権取得システムは、雑誌、書籍、CDなどの第一の媒体を受け付ける媒体受理手段と、受け付けた媒体を確認しアクセス権の発行を促す交換処理手段と、受理した第一の媒体のコンテンツと第二の媒体のコンテンツの関連を管理するアクセス情報管理手段と、第二の媒体のコンテンツをアクセスするための権利を発行するアクセス権発行手段と、該アクセス権を記憶するアクセス権記憶手段と

を有する。

【0008】本発明に係るコンテンツアクセスシステムは、第二の媒体のコンテンツをアクセスするためのアクセス権を記憶するアクセス権記憶手段と、該アクセス権の正当性を確認するデータアクセス認証手段と、該アクセス権と該アクセス権によりアクセス可能な第二の媒体のコンテンツとの関連を管理するアクセス情報管理手段と、コンテンツが格納されている第二の媒体であるデータ格納手段と、第二の媒体のコンテンツの閲覧、鑑賞等を行なうユーザインターフェース手段とを有する。

【0009】

【発明の実施の形態】以下では請求項1および請求項4および請求項8および請求項9および請求項10の実施例を図を用いて示す。図1はアクセス権を取得しコンテンツへのアクセスを行なうまでの一連の流れを示した模式図である。図2はアクセス権取得のためのシステム構成。図3はアクセス権取得のフローチャート。図6はアクセス権記録フォーマットの模式図。図12は無線タグが埋め込まれたジャケットの例である。

【0010】該システム利用者は第一の媒体である雑誌11を購入し閲覧の後、第一の媒体の回収場所である書店12に雑誌11を持参する。なお、回収場所は雑誌購入の書店でなければならないといった制約はなく、該システムが稼動していれば、第一の媒体と回収場所の業種や業態、地理的位置などは問わない(31)。

【0011】持参された雑誌11は該書店12において、該システムでの取り扱いしている雑誌であるか、有効期限内のものであるかなどの第一の媒体である雑誌の正当性の判断が媒体受理部21によってなされる(32)。具体的には、店員が目視によって判断するか、雑誌に付されているバーコード13などの汎用の符号列を読み取り装置等を用いて照合するか、印刷などで明示されるか、無線タグなどで埋め込まれた該システム専用の符号列を用いて照合する。図12は無線タグを埋め込んだジャケットの例であるが、121が示す位置に無線タグが埋め込まれている。この位置を示すために円形の印が付されているが、これに代わりエンボス加工を施すなど他の方法で該タグの位置を示しても良い。これによりタグの位置が容易に判り無線タグリーダでの符号列の読み込みが迅速にかつ確実にこなされる。

【0012】第一の媒体が正当なものであると判断されるとアクセス情報管理部22によって該当するコンテンツが第二の媒体にあるかの確認がなされる(33)。この際、たとえコンテンツが存在していても、該コンテンツのアクセス権発行数が別に定められた閾値を超えている場合など、ある基準を満たさなければコンテンツは存在しないとみなして良い。コンテンツが存在しないと判断されると利用者に対して第二の媒体上にコンテンツが存在しない旨の通知がなされる(34)。

【0013】該システムでは第二の媒体にあるコンテン

ツのアクセス権の発行は第一の媒体との引き換えに行なうことを前提としているが、別に定めるコンテンツアクセス料金を支払うことで第二の媒体のアクセスを認めてもよい。この場合、第一の媒体の正当性の確認に代わりコンテンツアクセス料金を徴収し、以下同様の操作を行なう。

【0014】第二の媒体にコンテンツの存在が確認されるとアクセス権の発行へと移る。この実施例でのアクセス権の実体は暗号化されたコンテンツを復号するための復号鍵である。復号鍵はある程度ビット長を持つビット列であるため、取り扱いの容易なICカードやスマートメディアなどのメモリーカード14がアクセス権記録部24に相当し、これに格納する。この場合、まず、アクセス権であるビット列を格納できるかの判断がなされる(35)。出来ない場合は、記録手段として異なるメモリーカード等への交換を促し、可能であれば(36)再度容量を確認しアクセス権の発行と格納へと移る。

【0015】以上の確認がなされるとアクセス権発行部23より第一の媒体のコンテンツと同様な第二の媒体上にあるコンテンツへアクセスする権利である複合化鍵となるビット列が発行される。このアクセス権の発行は遠隔にあるサーバにより行なわれるか、局所的なサーバで行なわれる。この際、アクセス権は利用者の要求に応じて発行することが可能で(37)、コンテンツコンテンツ全体のアクセス権や、必要な記事だけといった部分的なアクセス権も得られる(38)。発行されたアクセス権であるビット列をメモリに格納(39)することでアクセス権の取得が完了する。

【0016】アクセス権データの本質的な部分は複合化鍵のビット列であるが、アクセス権発行時に付加的な情報を得ることが可能である。図6はアクセス権記録フォーマットの模式図の一例である。付加的な情報として重要なのは該アクセス権の正当性を証明するために用いる認証情報61である。この他に第二の媒体の位置を示す情報も付加可能である。例えば、第二の媒体のコンテンツのアクセスにインターネットを介して行なうならばURLを付加情報として記録すればよい。

【0017】以下では請求項2および請求項3および請求項4の実施例を図を用いて示す。図1はアクセス権を取得しコンテンツへのアクセスを行なうまでの一連の流れを示した模式図である。図4はコンテンツアクセスのためのシステム構成。図5はコンテンツアクセスのフローチャート。図6はアクセス権記録フォーマットの模式図である。図7は第一の媒体のコンテンツの一例。図8は図7の第一の媒体のコンテンツに対応する第二の媒体によるコンテンツの表示例である。

【0018】今日、遠隔地の電子的なマルチメディアコンテンツへのアクセス手段としてインターネットの利用が一般的となっている。ここでも、第二の媒体である遠隔のデータベース15に格納されている電子的なコンテ

ントをアクセスする場合、インターネットを介し、パーソナルコンピュータ16を用いてアクセスする例を示す。

【0019】ユーザインターフェース部45はコンテンツの形式により汎用的なマルチメディアビューアであるWWWブラウザ、または、該システムで利用することを目的とした専用のビューアを用いる(51)。暗号化された第二の媒体にあるコンテンツの復号のために先に入手したアクセス権である復号鍵を用いる。この際、アクセス権インターフェース部41であるICカードリーダーやスマートメディアリーダーなどの入力インターフェースを介し、該復号鍵の符号列をパーソナルコンピュータのメモリー上、もしくは、ハードディスク上に移動させるか、該入力インターフェースを介して直接、汎用WWWブラウザ、もしくは、専用ビューアで利用する(52)。

【0020】利用するアクセス権が妥当なものであるか否かはデータアクセス認証部42によって判断され(53)、不当な場合はその旨通知され(54)コンテンツへのアクセスは出来ない。アクセス権が妥当なものである場合、アクセス情報管理部43により該当するコンテンツが存在するかの確認がなされる(55)。コンテンツの存在が確認されると該利用者へデータ格納部44にある第二の媒体のコンテンツへのアクセスが許される(57)が、コンテンツが存在しない場合はその旨通知されコンテンツへのアクセスは出来ない。

【0021】コンテンツの格納場所はURLなどで示すことが可能で、第二の媒体上のコンテンツをアクセスする際、利用者が該URLを直接入力し与えるか、コンテンツのリストから選択するか、もしくは、アクセス権である復号鍵を入手する際、同コンテンツの格納場所を示すURLを同時に入手する。メモリーカードにコンテンツの復号鍵と格納位置などの付随情報が記録されており、図6に示すように記録フォーマットが定められていれば、自動的に、もしくは、半自動的にコンテンツへのアクセスが可能である。

【0022】このように第一の媒体が雑誌または書籍でコンテンツは印刷の形式で格納されており、第二の媒体がインターネットに代表されるネットワークでありコンテンツは電子的に格納されている場合の表示例が図7、図8である。図7は雑誌のページを開いたところで54、55ページが示されている。該システムを利用しインターネット上にある同一コンテンツをパソコン上のブラウザ80により表示させた例が図8であり、第一の媒体のコンテンツと同様に見開きの54、55ページがレイアウトされている。このように、第二の媒体のコンテンツを表示する場合、コンテンツの作成者の希望や該システム利用者の希望によって第一のコンテンツと同様のレイアウトがなされる。また、コンテンツの作成者の希望や該システム利用者の希望によって第一のコンテンツ

と異なるレイアウトがなされることもある。この他に、第一の媒体がCDまたはビデオテープまたはDVDなどのパッケージメディアでコンテンツは媒体に応じた形式で格納されており、第二の媒体がインターネットに代表されるネットワークでありコンテンツはMP3やストリーミングビデオに代表されるネットワーク配信に適した形式で格納されている場合や、第一の媒体が雑誌または書籍でコンテンツは印刷の形式で格納されており、第二の媒体がCD-ROMやDVD-ROMなどパッケージメディアでコンテンツは媒体に応じた形式で格納されている場合など様々な第一の媒体と第二の媒体の組み合わせにおいて該システムが適用可能である。

【0023】以下では請求項5および請求項6の実施例を図を用いて示す。図1はアクセス権を取得しコンテンツへのアクセスを行なうまでの一連の流れを示した模式図である。図7は第一の媒体のコンテンツの一例。図8は図7の第一の媒体のコンテンツに対応する第二の媒体によるコンテンツの表示例である。図9はコンテンツアクセスのためのシステム構成図である。

【0024】第二の媒体である遠隔のデータベース15に格納されている電子的なコンテンツをアクセスする場合、インターネットを介し、パーソナルコンピュータ16を用いてアクセスする例を示す。

【0025】ユーザインターフェース部95はコンテンツの形式により汎用的なマルチメディアビューアであるWWWブラウザ、または、該システムで利用することを目的とした専用のビューアを用いる。暗号化された第二の媒体にあるコンテンツの復号のために先に入手したアクセス権である復号鍵を用いる。この際、アクセス権インターフェース部91であるICカードリーダーやスマートメディアリーダーなどの入力インターフェースを介し、該復号鍵の符号列をパーソナルコンピュータのメモリー上、もしくは、ハードディスク上に移動させるか、該入力インターフェースを介して直接、汎用WWWブラウザ、もしくは、専用ビューアで利用する。

【0026】利用するアクセス権が妥当なものであるか否かはデータアクセス認証部92によって判断され、不当な場合はその旨通知されコンテンツへのアクセスは出来ない。アクセス権が正当なものである場合、アクセス情報管理部93により該当するコンテンツが存在するかの確認がなされる。コンテンツの存在が確認されると該利用者へデータ格納部94にある第二の媒体のコンテンツへのアクセスが許されるが、コンテンツが存在しない場合はその旨通知されコンテンツへのアクセスは出来ない。

【0027】コンテンツの格納場所はURLなどで示すことが可能で、第二の媒体上のコンテンツをアクセスする際、利用者が該URLを直接入力し与えるか、コンテンツのリストから選択するか、もしくは、アクセス権である復号鍵を入手する際、同コンテンツの格納場所を示

すURLを同時に入手する。メモリーカードにコンテンツの復号鍵と格納位置などの付随情報が記録されており、図6に示すように記録フォーマットが定められていれば、自動的に、もしくは、半自動的にコンテンツへのアクセスが可能である。該システムを用いて第二の媒体のコンテンツをアクセスした際、局所的データ格納部96に該コンテンツの一部または全部を一時保管しておくことが可能である。これにより、同様の第二の媒体のコンテンツをアクセスする際、遠隔に存在するコンテンツに代わり該局所的データ格納部に格納されたデータを読み出すことでネットワークを介してコンテンツデータがロードされるのを待たずに瞬時に該コンテンツの表示が可能となり、第二の媒体のコンテンツにあっても快適なアクセスが行なえる。しかし、第二の媒体のコンテンツへのアクセス権である暗号の復号鍵と第二のコンテンツが同時に利用者側機器に存在することはコンテンツの保護という観点から問題がある。ここでは第二の媒体のコンテンツのうち事前に定められた種類のデータ、または、ある閾値を超えるような大容量データ、または、その他に定めるデータなど特定のデータに関して、1度目のコンテンツへのアクセスの際に局所的データ格納部へ格納を行い、表示に際しては局所的に格納されているデータと遠隔にあるデータとを統合して表示する。

【0028】図10を用いて該当データを局所的データ格納部へ格納する流れを説明する。該システムにより得たアクセス権を用い第二の媒体のデータへのアクセスを行い(101)、過去にアクセスしたことがあるコンテンツであるか判断する(102)。過去にアクセスしたことがあればコンテンツの一部の局所的な格納は行なわれない。過去にアクセスしたことがなければ所定の場所からコンテンツの一部を格納する際に使用する暗号鍵を得る(103)。コンテンツは様々な種類のデータがいくつもの部分に分かれて構成されているため、部分毎、データ種別ごとに先に定められた局所的に格納するデータであるかの判断を行なう(104)。該当する場合、先に得た暗号鍵を用い該当データを暗号化し(105)、別に定めた規則に従い局所的データ格納部へ格納する(106)。該当しない場合は次の部分またはデータ種別の判断を行いこれらをコンテンツの終了位置まで行なう(107)。

【0029】図11を用いて局所的データと遠隔からのデータを統合してコンテンツを表示する流れを説明する。該システムにより得たアクセス権を用い第二の媒体のデータへのアクセスを行い(111)、過去にアクセスしたことがあるコンテンツであるか判断する(112)。過去にアクセスしたことがなければ局所的データと遠隔からのデータを統合してコンテンツを表示することは行なわれない。過去にアクセスしたことがあれば、所定の場所から局所的データを複合化するための復号鍵を得る(113)。コンテンツは様々な種類のデータが

いくつもの部分に分かれて構成されているため、部分毎、データ種別ごとに局所的に格納されたデータであるか否かの判断を行なう(114)。判断が行なわれた部分が該当するデータである場合、局所的データ格納部から対応するデータを読み出し(115)、先に得た復号鍵を用い該当データを復号化する(115)。該当しない場合は遠隔から該当データをロードする(117)。このように、局所的データと遠隔からのデータはそのレイアウトに従い統合して表示される(118)。

【0030】具体的な例を図8で説明する。コンテンツの一部であるこのページは文字と画像の二種類のデータから構成されている。ここで、局所的に格納されるデータが文字以外と定められていると仮定すると、該システムを用いて第二の媒体への1度目のアクセスにより画像データ81および83が局所的データ格納部に格納される。2度目以降のアクセスに際しては、画像データ81および83は局所データ格納部から文字データ82および84は遠隔の第二の媒体からそれぞれ得て、統合してブラウザ80上に表示される。

【0031】以下では請求項7の実施例を図を用いて示す。図1はアクセス権を取得しコンテンツへのアクセスを行なうまでの一連の流れを示した模式図である。

【0032】第一の媒体である雑誌11と交換にアクセス権を入手する場合、第一の媒体の回収所12であるお店では一連の手続きを行なう際の処理経費、通信費用などが発生する。アクセス権発行の際にこれらの経費をまかなうために利用者に課金することも可能であるが、雑誌などの第一の媒体の価格に予めこれらの処理費用を上乗せしておくことも有効な方法である。なぜなら、利用者はコンテンツに対して対価を支払っている場合が多く、第一の媒体はあくまで媒体としての役目をしておりそれ自体にはあまり価値がない。一旦、コンテンツへの対価を支払っているため、同様のコンテンツを第二の媒体から得るために更に費用がかかることには少なからず抵抗があるであろう。しかし、その場合第二の媒体のコンテンツをアクセスする権利を必要としない利用者も存在する。該第一の媒体利用者は不必要な費用を負担することになるが、上乗せされていた金額の全部または一部を返還することで回収所への第一の媒体の返却を行なうものと考えられる。雑誌などに代表されるリサイクル可

能な媒体17を該システムの利用を目的として返却するか、該システムの一部の処理費用の上乗せ分の返還を目的として返却することでこれまで滞っていたリサイクル資源がより回収しやすくなる。

【0033】

【発明の効果】本発明により、1つの媒体のコンテンツに対する投資により異なる媒体でも同様のコンテンツが閲覧、鑑賞等を可能とする。すなわち、コンテンツ購入者のコンテンツ所有権の保護ができる。

【0034】本発明により、第二の媒体のコンテンツアクセスの条件を第一の媒体の交換とすることで、無駄に保管されていた雑誌などのリサイクル可能な資源の回収が推進できる。

【0035】本発明により、媒体の変換が行なえるため雑誌のような紙媒体では難しかった検索などの操作が第二の媒体上にコンテンツに対しては容易に行なえる。また、コンテンツ作成者も第二の媒体のコンテンツのアクセス状況を知り得るため雑誌のような紙媒体では難しかった記事単位のマーケティングが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】雑誌コンテンツのアクセス方法模式図。

【図2】アクセス権取得システム構成図。

【図3】アクセス取得アルゴリズム。

【図4】コンテンツアクセスシステム構成図。

【図5】コンテンツアクセスのアルゴリズム。

【図6】アクセス権記録フォーマット模式図。

【図7】第一の媒体のコンテンツ例。

【図8】第二の媒体のコンテンツ表示例。

【図9】コンテンツアクセスシステム構成図。

【図10】局所データ格納アルゴリズム。

【図11】局所データ表示アルゴリズム。

【図12】無線タグ付きジャケットの例。

【符号の説明】

11：雑誌

12：書店

13：バーコード

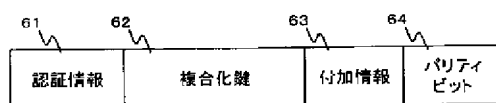
14：メモリーカード

15：データベース

16：パーソナルコンピュータ

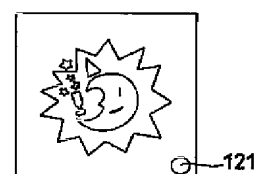
17：リサイクル可能な媒体

【図6】



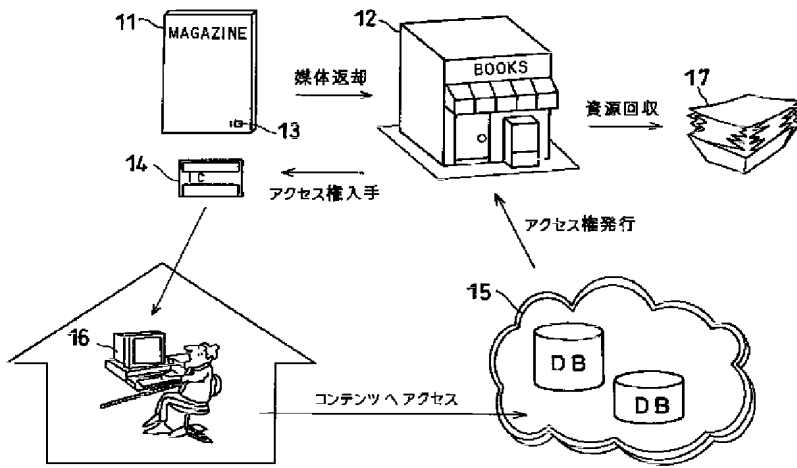
アクセス権記録フォーマット模式図

【図12】



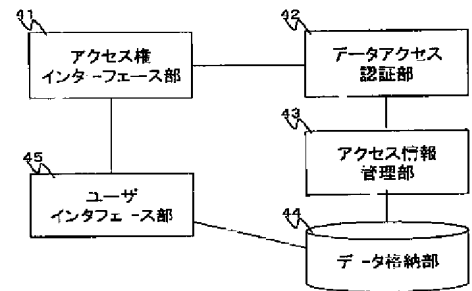
無線タグ付きジャケット

【図1】



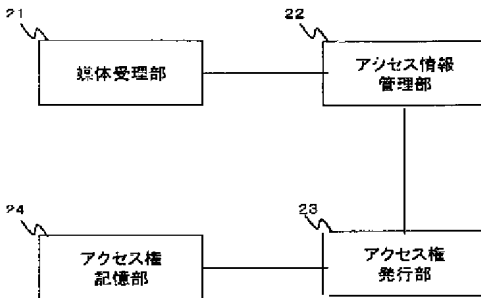
雑誌コンテンツのアクセス方法

【図4】



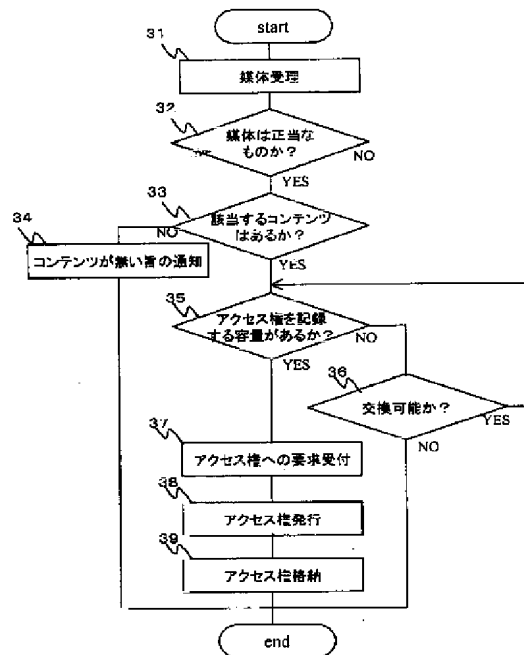
コンテンツアクセスシステム

【図2】



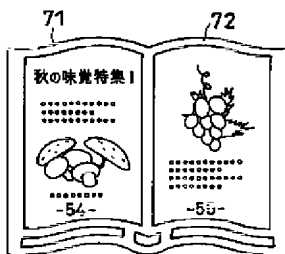
アクセス権取得システム

【図3】



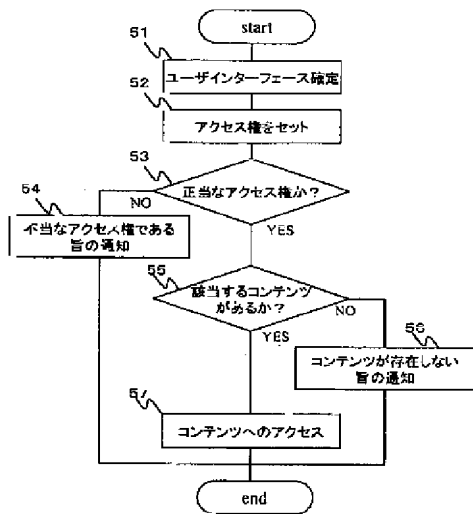
アクセス取得アルゴリズム

【図7】



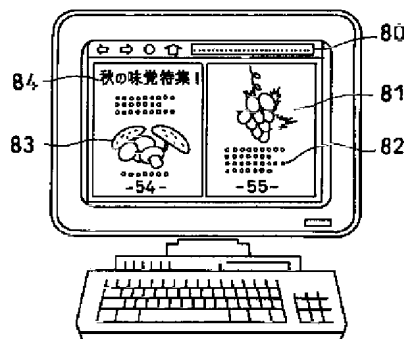
第一の媒体のコンテンツ例

【図5】



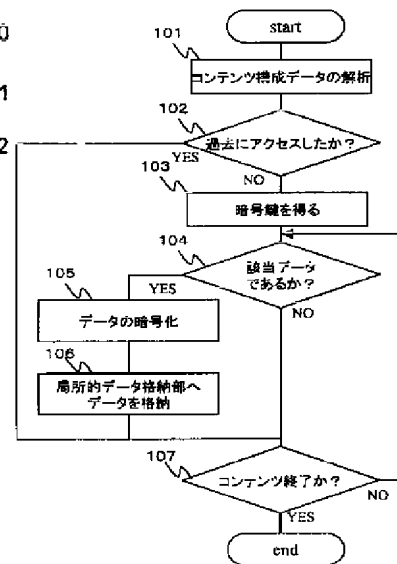
コンテンツアクセスのアルゴリズム

【図8】



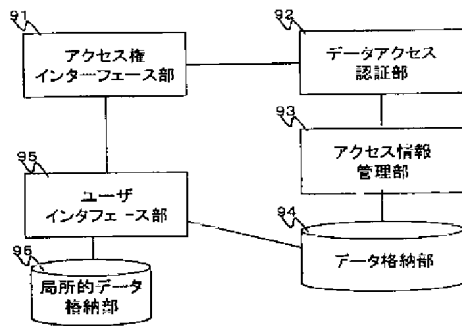
第二の媒体のコンテンツ表示例

【図10】



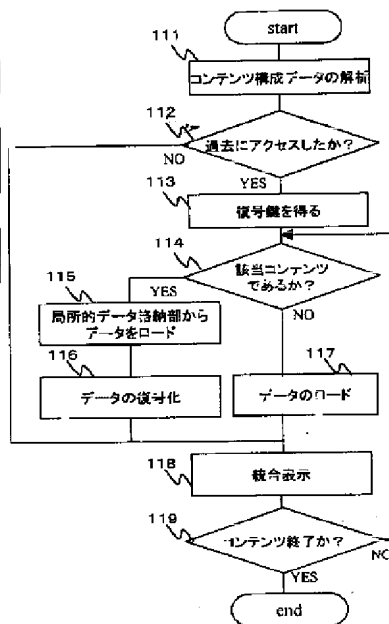
局所データ格納アルゴリズム

【図9】



コンテンツアクセスシステム

【図11】



局所データ表示アルゴリズム

フロントページの続き

(72)発明者 上谷 義治  
神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地 株  
式会社東芝研究開発センター内

(72)発明者 是津 達也  
神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地 株  
式会社東芝研究開発センター内